第 2016-32 号

恵みと真理のニュース

2016 年 8 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は私の旦那を変化してくださり救ってくださいました

私は教会がないカンウォンドの田舎で生まれ育ちました。小学校に通うときにソウルの大学から夏聖書学校のボランティアで来た大学生を通してイエス様を知るようになりました。そのときに主の導きを体験して続けて教会を通いたかったですが、近くに教会がなかったので通わなくてイエス様を忘れて１７年間過ごしました。

青年になってソウルに来て生活をするうちに自分の気に入る人に出会って結婚しようとしましたが、親の反対がひどくてまず二人で一緒に同居をしました。私は金物屋を運営して旦那は日雇いをしました。旦那が親孝行を熱心にすると後で親から結婚の承諾を受けて4年ぶりに結婚式をしました。

結婚式をすると幸せに生活をすると思いましたが、現実は旦那がお酒を飲んで旦那が変わり始めて酒好きになり放埒な生活をしました。親の反対にもかかわらずした結婚だから家庭を守るため努力をしました。しかし、時間がたつほど大変で苦痛でした。この状況になって子供のころ経験したイエス様が思い出しました。自ら近くにある教会に行きました。朝祈り会にも参席して主の慰めと助けを求めながら祈りました。私が教会に行く時間が多ければ多いほど旦那の迫害もひどくなりました。

ある日は主日に旦那が教会に来て牧師が説教をなさるときに礼拝を妨げました。私はとても怖くて恐ろしくて神様に祈りました。“神様、旦那が早く私の隣の席に来て寝るようにと祈りました。”すると瞬間大きい声で私の名前を叫んだ旦那が私の隣の席に来て寝ました。旦那の鼾があまりにも大きくて聖殿全体に響きました。恥ずかしくてしょうがなかったです。礼拝が終わると牧師が旦那を呼んで祈ってくださいました。

しかし、旦那の迫害は終わらなかったです。私も諦めなくて熱心に教会に行って旦那の変化のため神様に祈りました。

私が結婚して8年になる年、神様は祈りに答えてくださって息子を産みました。旦那が私よりもっと喜びました。その3年後私は願わなかったですがヨンインで生活したいと願っていたので酒をあまり飲まなくて真面目に生活をすると約束したから2003年3月にヨンインに引っ越しました。まず、貸し切り家で引っ越しして家を建てる土地を買って建築しました。

どころが続けて大きい問題が出来て家を全部建てるまで多くの苦労を経験しました。旦那は私と約束したのを守らなくて家を建てる大きい仕事をしながらもソウルで生活したように同じく生活していました。そして、設変などで建築費が足りなくてお金を借りるしかなかったです。

紆余曲折を経てやっと新しい家に入りましたが旦那は同じでした。近くにある教会に行ってみたが田舎で長く住んでいたので言葉使いと行動に傷つけられて心が不便でした。仕方なく家から遠い教会を通いました。そうするうちに旦那が仕事をする時に 電動ノコギリに右手の指3本を大けがをする事故に遭いました。 夫は1年間、仕事ができず、治療をしなければなりませんでした。どんな保障も受けなくて家族の家計が苦しい状況で私が働かないといけなかったです。4歳になる息子を見守るため正社員にはならなくて営業をするのを探して働きました。その営業場で真実な恵みと真理教会の執事に出会いました。そのとき執事に出会ったのが私に大きい福になりました。執事をついて教会に通いながら私の信仰が大きく成長しました。

当会長のチョ牧師の説教を聞くたびに大きい慰めと力を得て初めて聖書御言葉に元ついた信仰を持つようになりました。主を深く信頼して恨みと不平の心が感謝と期待と希望の信仰に変わりました。健康を回復した旦那は自分が熱心に働くからあなたは子育てに専念するとしました。それで私は礼拝と教会中心の生活しました。

旦那より酒好きだった旦那の兄が急に健康が悪化され若い歳で亡くなりました。すると旦那は酒をやめる決心をしました。しかし、実践は難しかったです。最後の機会だと思って旦那に勇気をあげながら切に神様の助けを求めながら祈りました。教会から家まで1時間も超える遠い距離でしたが教区伝道師がよく訪問に来て御言葉と祈ってくださいました。

それで私はもっと力と勇気を得て熱心に祈って教会で小さいこともあったら奉仕しました。そしてついに結婚16年ぶりに旦那が禁煙に成功しました。イエスキリストを受け入れ生まれ変わった人になり水洗礼を受けました。それだけでなく仕事も熱心に家族のため働く人になりました。“

主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。“（詩編４０：１）ハレルヤ！

うれしい限りで感謝します。変化が不可能だと思った旦那を変化させてくださった神様の恵みと権能に限りません。神様が神様がもっと大きい恵みと愛を与えてくださり旦那が真実で真面目な主に用いられる者として教会と生徒を仕える姿を描きながら信仰と感謝の賛美を神様に捧げます。最後まで私たちの家庭を守ってくださり、旦那を変化させた全能なる神様、息子が中学生になり教会学校で熱心に信仰を成長するまで見守ってくださった愛の神様にすべての栄光をささげます。

“どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。（ フィリピ信徒への手紙）アーメン”

［信仰コラム］　このほか、何を言おうか

”このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。...”（ヘブライ書 11:32～40）

ある宗教人になろうとする時、その宗教の創始者や教理に対する信仰が必ずしも必要なわけではありません。しかし、キリスト教は違います。聖書に啓示された創造主神様と救い主を信じる信仰なしにはキリスト人になれません。聖書は信仰の対象と内容を啓示しておりまた、信仰によって生きる方法についても教えています。そして、信仰によって行った模範的な人々と事件が記録されています。ヘブライ書 11 章はこれを集中的に扱っています。

32 節から 35 節までは次のように記録されています。”このほか、何を言おうか。もしギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデ、サムエル及び預言者たちについて語り出すなら、時間が足りないであろう。彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。”としました。

神様の僕として活躍した人々は彼が生きた時代と活動舞台そして、役割は各々異なっても一つの共通点があります。信仰で行動したということです。ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、ダビデは全て戦争英雄であるが、彼らが獲得した勝利は剣と槍によらず信仰によったことです。ダニエルは王以外の神や人に求める者はしし穴に投げ込むようにする詔書に王の判が据えられたことを知ったが、以前の通りに自分の家で一日に 3 回ひざまずいてお祈りしました。彼はしし穴に投げ込まれたが無事でした。シャデラク、メシャク、アベデネゴはネブカデネザルが立てた金の像に拝まなかったので縛られて燃える溶鉱炉に投げ込まれたが、彼らを縛ったことだけ焼いて三人は燃えませんでした。ダビデは自分を殺そうとするサウル王の剣を、予言者エリヤはイセベルの剣を、エリシャはアラム王の剣を免れました。”弱いものは強くされ”ということはお祈りで神様の哀れみを受け癒されたヒゼキヤ王等の様々な事例を言います。”女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。’ということはサレプタやもめの息子とシュネムに暮す女性の子供が死んたが、再び生き返た事件を言います。この全てが信仰で行った結果であります。

35 節の後半から 38 節までは次のように記録されています。”ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、羊の皮や、やぎの皮を着て歩きまわり、無一物になり、悩まされ、苦しめられ、（この世は彼らの住む所ではなかった）、荒野と山の中と岩の穴と土の穴とを、さまよい続けた。”

本文のお言葉を詳しく調べてみると信仰によって生きていく人が経験するとても対照的な状況が記録されています。その中で一つは、神様の能力が現われて私達を害しようとする勢力を退け、克服させて奇跡的に問題が解決され状況を逆転させる場合であります。他の一つは、抑圧と損失と苦痛、欠乏と苦難を受けてさらに、命を失っても苦難を喜ばしく耐えて最後まで神様を崇めながら信仰を失わなかった場合です。信仰によって生きることはこの二つの場合を全て含めています。神様が今日にも信仰によって行う聖徒に奇跡的な病の癒しと問題の解決と勝利、そして営むことに成功を得るようにしてくださいます。神様は全知全能で無所不在でおられ、善良で真実でおられます。変りがありません。私達が経験する全てのことが遂に有益で良い結果になるようにしてくださいます。従って、皆さんは神様がおられるという事実だけでも楽しい生活ができる信仰の所有者になってください。キリストイエスの中で救いを得て神様の子供になったことだけでも喜ばしく生きることができる信仰の所有者になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

返すことができない借金と
返すのを力をつくさなければならない借金

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

私たちはできるだけ借金しないように努力しなければなりません。聖書 箴言, 22 章 7 節には “富める者は貧しき者を治め、借りる者は貸す人の奴隷となる。”と記録されています。ところで借金と言うのはお金で計算することができることに限定されないから事実は借金しないで暮す人はいないです。 今日は人が到底に返すことができない借金に対してそして私たちが力をつくして返さなければならない借金に対してよく見ます。

第一は、人が返すことができない借金に対してよく見ます。

イエス様は罪と赦しを借金と借金の棒引きという概念で説明しました。 マタイ福音 18 章でイエス様は天国が自分のしもべと決算をしようとするある王のように話しながらこんな話をしました。
“しもべの主人が決算を始める時に一万ダルラントを借金したあるしもべが主人の前にひかれて来たが彼は返す物がなかったです。 主人がそのしもべを可愛想に思って彼を放してやって借金を免除してくれました。 そのしもべが出て自分に１００デナリオン借金した自分の仲間の一人に会いました。 一ダルラントは 6 千デナリオンです。 理解しやすく比べようとすると賃金に 6 千億ウォン借金を棒引き受けた者が帰る途中に自分に百万ウォン借金した仲間に会ったのです。 ところで彼が仲間の胸ぐらを取って振って ’私に借金したことを返しなさい.’とどなったら彼の仲間が伏せて懇請するのを時間を与えれば返したら待ってくれと言いました。 彼は聞こうと思わないでその人を監獄に閉じこめました。 これを見た仲間が主人に行ってその事を報告しました。 主人がきいて彼を呼んで来て言いました。 ’悪いしもべよ、君が私に懇請するのに私はお前にその借金をすべて免除してくれた。 それではお前も君の仲間に慈悲を施さなければならないじゃないか?’ 彼の主人が怒ってそのしもべが借金したすべてのものを返すまで彼を看守に渡してやりました。” この比喩に盛られた重要な要点の中一つは神様を向けて罪を犯した人間の状態を借金した状態で説明したというのです。
人間にある罪という借金はとても多きでどんな行為でもそれを返すことができないです。 教育、修養、宗教意識、苦行、慈善救済で返すことができないです。甚だしくは他人を生かすために自分の命を捨てる行為をしても返すことができないです。どんな大人君子でも他人の罪の借金を返してくれることができないです。 人間としては方法がないです。 このような人生を可愛想に思って神様が親しく解決策を予備なさいました。 神様から送られて世の中へいらっしゃった神様のイエスキリスト、イエス様が罪人の罪を代わりに担当して十字架に釘付けて差し込まれる事ができなくたまらなかったです。そして復活昇天して神様の御座の右便にいらっしゃいます。

聖書に記録されるのを “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”(ヨハネによる福音書 3:16)、“ しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。”(ヨハネによる福音書 1:12,13) しました。 ローマ人への手紙 3 章には “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。”(ローマ人への手紙 3:23,24)で断定的に記録されています。
罪を棒引きを受けるための要件が三種類あります。 第一、自分が途方もない罪の借金をした人というのを悟って認めなければなりません。 棒引きと赦しは自分が借金したことが分かってあわれみを求める者に施されます。 第二、自分の行為では罪の借金を一つも清算することができないということが分かって認めなければなりません。 第三、私たちのすべての罪を棒引きを受けようとすれば私たちの罪をあがないしたイエスキリストを信じる道だけであるということを悟って信じるのです。 このような三種類の要件が揃ったのが罪の赦しに至らせる悔い改めです。
救いの恵みに関して私たちが警戒しなければならないことがあります。 イエスキリストによる救いの恵みを借金で思うことを警戒しなければなりません。 神様がイエスキリストによってくださる救いの恵みは借金ではなく贈り物です。 救いの恵みを受ける人はまことに幸せな人です。 神様の前での人間の罪を借金という概念で説明したらこんな借金人の行為では返す永遠に全然ない借金です。 こんな借金イエスキリストのあがないの恵みだけで棒引きされて清算されます。 だから私たちは今から永遠にただイエスキリストの恵みの中に泊まっていなければなりません。

二番目は、返すのを力をつくさなければならない借金に対してよく見ます。

正常な人は借金を返さなければならないという考えを持たなければならないし必ず返さなければなりません。 ところでクリスチャンは何の借金意識を持つようになります。 それは愛の借金です。 私たちがイエスキリストを信じるようになったことは先ずに神様から選ばれた理油だが一方では幾多の人々の手数があったのです。 その中には予言者と使徒があります。 聖書を翻訳して普及した者があります。
名前も分からない幾多の宣教師と伝道者がいます。 私たちはそのすべての人々に世話になったということを忘れてはいけないです。 そして今も私たちが信仰生活をよくすることができることは幾多の教役者と聖徒の助けがあるからです。 教会堂は多くの聖徒の献身になったのです。 礼拝のために多くの分野で奉事する方々がいます。 クリスチャンではなくても礼拝させていただくのに手助けになる方々が数えきれなくいます。 電気、水道、通信、運送に係る人々がいます。 国家安保と治安のために苦労する人々がいます。 私たちは数えきれないほど多い人々に愛の借金をしています。 このような借金を力つくして返さなければなりません。その借金を返す方法は多いがその中でクリスチャンができてしなければならないことがあります。
福音が分からないとか信じない者に福音を述べ伝える事です。 他の聖徒が信仰生活をよくすることができるように助ける事です。
使命感と責任意識をまるで借金を返さなければならない借方のように認識しました。 ローマ人への手紙 1 章に見ると “わたしには、ギリシヤ人にも未開の人にも、賢い者にも無知な者にも、果すべき責任がある。”(ローマ人への手紙 1:14)で記録されています。 パウロが言っている借金は珍しい性格を持っています。
第一、この借金返さなければならない対象が自分に福音を伝えた人ではなく神様の恵みが分からなくて信じない人々です。 第二、この借金お金に計算される借金ではないです。 第三、この借金は負担な借金ではなく使命感に燃えさせるのです。 第四、この借金を返す事には神霊な喜びがよります。 五番目。 この借金を返す事には神様の称賛と賞が約束されています。
引き継いで使徒パウロは言うのを “そこで、わたしとしての切なる願いは、ローマにいるあなたがたにも、福音を宣べ伝えることなのである。” (ローマ人への手紙 1:15) としました。
ローマ教会信者はもう福音をきいた者です。 ところで彼らを訪問して福音伝えるのを願うと言った理由は何ですか? 彼らは福音をきくことはしたが いまだに使徒を通じて直接的な教えを受けることができなくて教会にさまざまな問題点を持ったからです。 教会は誘惑と患難と逼迫を十分に耐えながら勝つようにお互いに励まして教えながらつかんでくれる所です。 だから教会で職分を受けてその任務を遂行することは借金を返す事に積極的に参加するのです。 これは非常に光栄な事で必ずしなければならない神聖な任務です。

私たちは返すことができない罪の借金をした人々でした。 その借金によって地獄の刑罰に処するように判決を受けた状態にありました。 ところである日イエスキリストを信じる信仰でその借金を棒引きを受けました。 その途方もない借金を棒引き受けるようになったことだけではなく天使が欽慕する身分と地位と企業まで得るようになりました。 このような恵みは返さなければならないのではないです。 返すこともできないが返そうと思えばその恵みを不名誉にさせるのです。 こんな恵みを受けた人が現わさなければならない適当な態度は楽しがって感謝しながら暮すのです。 その恵みを思えばどんな問題や難しさもすべて乗り越えるようになって、富裕意識と幸福感を持って生きて行く姿を見せるのが適当です。そしてこの恵みを受けた者は福音をきくことができずに信じない人々と同時にすべての信じる者にまで借金した者という認識を持って暮さなければなりません。 これは愛の借金です。 この借金を返す事は楽しい事です。 私たちの一生に永遠な意味と価値を加えさせる仕事です。
聖徒の皆さんは返すことができない罪の借金を棒引き受けた幸せに対して日増しにもっと豊富に悟るようになってください。 また愛の借金を返す使命感と楽しいことで力をつくして伝道して奉事するように願いします。